

1. 学内からの視点

(1) プログラムの履修・修得状況

本プログラムリテラシーレベルの対象科目はすべて必修科目である。単位修得状況は教務委員会で確認している。休学者、退学者および編入学生（外国人留学生、4年次編入学生）を除き、プログラムの履修・修得者は100%となる。

(2) 学修成果

本プログラムの対象科目は課題等への取り組みにより学修状況の評価を行っている。また、情報教育センターや図書館、一部学科にもパソコンがあり、学生がパソコンを使用できる環境が整備されている。さらにはBYOD導入により、時間や場所に制限されず、卒業研究をはじめとする調査や研究の際に利用可能となっている。

(3) 学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度

授業内容改善のため、学生を対象に授業評価アンケートを実施している。このアンケートには、「教員の説明のわかりやすさ」に関する項目や「積極的な取り組みの学生の自己評価」等の項目はあるが、本プログラムの理解度に関する効果的な計測には不十分と考えられるため、内容を検討する必要がある。

(4) 学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度

本プログラムに設定されている科目はすべて必修科目である。令和4年度の学科再編後のカリキュラムではデータサイエンス科目群の枠組みを設置しており、今後も在学生および入学希望者に対しても広く推奨していく必要がある。

(5) 全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況

本プログラムは4年次までの必修科目として設定しており、令和元年度以降の入学生はほぼ100%の履修率となる。今後も教育改善に取り組みながらこれを継続する。

2. 学外からの視点

(1) 教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価

令和3年度時点での本プログラムの修了者の卒業生はいない。

(2) 産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見

研究会（学外有識者による外部評価）において、令和4年度4月の学科改組に伴い、データサイエンス分野への取り組みに期待する意見があった。また、義務教育におけるGIGAスクール構想が始まり、ITやプログラミングに興味を持つ子が増えてくると思われるため、発展していく最先端技術に触れられる機会を作ってほしいとの意見が寄せられている。

3. 数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること

卒業生アンケートの回答に、IT系知識を身につけることの必要性について記載があった。また、授業評価アンケートにおける「将来の自分に必要かどうかを考えたことができた」等の回答は、おおむね良好である。本プログラムに関する科目においては、特に先進的な事例紹介を行うなど、「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」の理解につながる授業設計としたい。

4. 内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること

これまでの実施状況を踏まえ学科再編後のカリキュラムへの更新を進めるとともに、教育力向上のためのFD研修会を引き続き計画し、授業内容を改善していく。授業評価アンケートにおける「授業のわかりやすさ」に対する回答に対して、科目担当教員が自身の授業改善に向けた参考資料として取り組む体制としている。

出席者：楡井教育改善委員会委員長、鈴木総務主事、
濱口教務主事、苅米教務委員、佐藤教務係長